

(平成19年2月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>2月期の野菜の市況については、1月に引続き記録的な暖冬に見舞われたことによって、各産地ともに豊作型となった。とりわけ、白菜、キャベツ、大根を中心とする重量野菜の生育の前進化と大玉化が進んだ。</p> <p>一方で、この全国的な豊作によって、年末から続く冬野菜の価格低迷が長期化したことにより、産地廃棄による生産調整が実施され、今月に入ってから、市場出荷が伸びず、結果的に入荷量は前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は、重量野菜の大玉化による加工業務筋の歩留まりの良さと鍋物商材の一般消費が全く伸びない状況の中、果菜類を中心とする販売環境が良好となる異常な結果となった。最終的には主力品目の価格低迷が影響し、前年同期を11%下回った。</p> <p>品目別には、きゅうり、なす、ピーマンが入荷増の単価安で推移し、玉ねぎは、入荷増にあつて、単価は前年並みで推移した。ほうれんそう、とまとは、入荷減の単価高となり、長大根、はくさい、キャベツ、ばれいしょは、入荷減ながら単価安であった。レタスは、入荷減にあつて、単価は前年並みで推移した。さらに、西洋ニンジンも、入荷量が前年並みで単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が4%減少し、価格は36%安となった。 葉菜類は、入荷が11%減少し、価格は23%安となった。 果菜類は、入荷が9%増加し、価格は5%安となった。 土物類は、入荷は前年並みで、価格も前年並みとなった。</p>
果 実	<p>2月期の果実の市況については、主力の柑橘系の作物の生産量が極端に少ない状況となった。リンゴ、イチゴでは、順調な入荷とはなったものの結果的に、入荷量は前年同期を13%下回った。</p> <p>価格は、入荷量の極端な減少から終始高値基調で推移し、結果として前年同期を20%上回った。</p> <p>品目的には、みかん、伊予かんが入荷減の単価高で推移し、サンふじが入荷増にあつて単価は前年並みとなった。王林は、入荷量は前年並みながら、単価高となった。さらに、アールスメロンは、入荷減ながら単価は前年並みとなった。</p> <p>柑橘類は、入荷が27%減少し、価格は47%高となった。 りんごは、入荷が15%増加し、価格は9%高となった。 いちごは、入荷は前年並みで、価格は3%安となった。 メロンは、入荷が17%減少し、価格は前年並みとなった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長大根	<p>徳島，長崎，神奈川を主力とする入荷。各産地ともに前進出荷で，春物の出回りも早くなったが，安値続きにより販売に苦慮し，集荷力が向上せず，結果的に入荷量は，前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら，暖冬により需要が弱く，長引く安値傾向から，前年同期を49%下回った。</p>
洋人参	<p>長崎，鹿児島，愛知を中心に千葉からの入荷。暖冬により各産地ともに生育よく，順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，暖冬による消費の低迷によって，前年同期を49%下回った。</p>
【葉菜類】	
はくさい	<p>岡山，兵庫，和歌山，愛知を中心に滋賀，長崎からの入荷。秋冬産地は，各産地ともに，暖冬傾向から生育もよく，前進出荷で中旬以降の入荷量は減少した。結果として前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は，大玉傾向が加工・業務用での歩留まりが良く，使用量の減少となり，また，暖冬による一般消費の低迷が続き，入荷量は少ないものの結果として，前年同期を34%下回った。</p>
キャベツ	<p>愛知，大阪，滋賀，兵庫を中心とする入荷。各産地ともに，暖冬傾向から生育もよく，前進出荷で中旬以降の入荷量は減少した。結果として前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は，大玉傾向が加工・業務用での歩留まりが良く，使用量の減少となり，また，暖冬による一般消費の低迷が続き，入荷量は少ないものの結果として，前年同期を42%下回った。</p>
ほうれんそう	<p>京都を主力に徳島，茨城からの入荷。各産地ともに高温の影響から前進出荷で推移していたことから，今月に入って入荷量が減少してきた。結果として，入荷量は前年同期を24%下回った。</p> <p>価格は，入荷量の減少から結果として前年同期を6%上回った。</p>
レタス	<p>兵庫，徳島，愛媛を中心に長崎からの入荷。各産地ともに暖冬傾向から作柄は良好で，前進出荷となった。しかし，中旬以降は作型が切替り入荷量は減少した。結果として，入荷量は前年同期を16%下回った。</p> <p>価格は，入荷量の減少によって，価格の低迷が回復しつつあり，結果として，前年並みとなった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【果菜類】	
きゅうり	<p>宮崎，高知を中心に愛媛からの入荷。上旬は，入荷量が伸びず高値傾向であったが，中旬以降は暖冬の影響もあり，入荷が増加した。結果として，入荷量は前年同期を13%上回った。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を19%下回った。</p>
なす	<p>高知，岡山を中心とする入荷。各産地とも暖冬傾向から，前進出荷となり，順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を33%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって，前年同期を10%下回った。</p>
トマト	<p>熊本，福岡，三重を中心とする入荷。各産地とも暖冬傾向から先月まで前進出荷となり，今月になって入荷量が減少してきた。結果として，入荷量は前年同期を6%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加えて，小玉中心となったことから，結果的に前年同期を14%上回った。</p>
ピーマン	<p>宮崎，高知，鹿児島を中心とする入荷。各産地ともに作柄も良好で順調な入荷となった。結果として入荷量は前年同期を22%上回った。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を7%下回った。</p>
【土物類】	
ばれいしょ (メーク含む)	<p>北海道，長崎，鹿児島を中心とする入荷。北海道産は，順調な入荷となったが，鹿児島産は入荷量が少なかったため，結果的に入荷量は前年同期を9%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら，暖冬による北海道産の発芽が懸念され，単価安での推移となった。結果として前年同期を6%下回った。</p>
たまねぎ	<p>北海道を中心に静岡，兵庫からの入荷。北海道は，残量も多く順調な入荷となった。静岡産の新物は，例年より約2週間程度の前進出荷となった。結果として，入荷量は前年同期を12%上回った。</p> <p>価格は，入荷量は多かったが，新物の高値と安価な輸入物の減少を要因として，順調な販売となった。結果として，前年並みとなった。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
普通みかん （早生含む）	<p>和歌山を中心とする入荷。裏年にあたることと暖冬による品質の劣化が見られ、入荷量は前年同期を37%下回った。</p> <p>価格は、入荷量が少ない中で、前年同期を73%上回った。</p>
伊予柑	<p>愛媛を中心とする入荷。暖冬傾向から前進出荷と小玉傾向から、2月に入り入荷量が減少してきた。結果として入荷量は、前年同期を21%下回った。</p> <p>価格は、入荷減に加えて、競合品目の柑橘類の入荷量が少なく、高値で推移し、前年同期を27%上回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>秋田、青森を中心とする入荷。サンふじは、越年残量も多く順調な入荷となった。結果として入荷量は、前年同期を18%上回った。</p> <p>価格は、入荷増と中玉、小玉中心から低迷したが、前年同期が単価安であったことから、昨年並みとなった。</p>
王林	<p>青森からの入荷。産地在庫が少ない中、高値基調で推移して、順調な入荷となった。結果として入荷量は、前年並みとなった。</p> <p>価格は、安値であった前年と比較して高値で推移し、前年同期を49%上回った。</p>
いちご	<p>熊本、福岡、長崎、佐賀、大分、愛媛を中心とする入荷。各産地ともに概ね天候に恵まれ、順調な入荷となった。結果として入荷量は、前年並みとなった。</p> <p>価格は、入荷量の増加に伴い中下旬にかけて安値基調となり、結果として、前年同期を3%下回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡、宮崎、高知を中心とする入荷。原油高等により冬場の作付けが減少傾向にあり、入荷量は前年同期を17%下回った。</p> <p>価格は、入荷減による高値予想から需要が伸び悩み、結果的に前年並みとなった。</p>